療法名 **UFT+LV療法**

適応 大腸癌

抗癌剤適応分類 進行・再発癌、術後補助化学療法

第2版	2025年1月改訂
登録番号	大腸-30
登録年月日	2018年9月

投与順	抗癌剤名(一般名)	【略語】	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	ユーエフティ® (テガフール・ウラシル)	UFT	300mg～600mg 体表面積に応じて調節	経口	1日3回食間	d1～28
	ホリナート (ホリナートカルシウム)	LV	75mg	経口	1日3回食間	d1～28

	day	1	2	3	4	5	6	7	8	…	15	…	21	…	28	…	35
UFT	300mg～600mg 体表面積に応じて調節	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓		
LV	1回25mg 1日3回	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓		

1コース期間 (次のコースまでの標準期間)	5週間(4投1休)
総コース数	進行・再発癌の場合規定なし。術後補助化学療法の場合5クール
コース間での休薬規定	チェックリスト参照

減量規定・中止基準	血液学的項目は≧Grade3(血小板減少はGrade2)で休薬・減量を考慮。下痢、口内炎、その他の非血液学的項目は≧Grade2で休薬・減量を考慮。
投与量の増量規定	なし
投与間隔の短縮規定	なし
コースによる変化	なし
1日の中での抗癌剤投与順	なし
プレメディケーション	なし

主な副作用とその対策	下痢、口内炎、骨髄抑制、嘔気、全身倦怠感、色素沈着、皮疹など
患者条件	チェックリスト参照
除外規定	S-1中止後7日以内の患者、重篤な骨髄抑制のある患者、重篤な下痢のある患者、妊娠または授乳している可能性のある患者
実施上の注意点	食事の影響でAUC、Cmaxが変化するため食事の前後1時間を避けて服用すること

備考	切除不能・転移再発大腸癌、術後補助化学療法に対する標準療法のひとつ。
治療成績	011試験、012試験では5-FU/LVを対照にして生存期間、病勢進行期間において非劣性が示されている。 JCOG0205試験ではStageⅢ大腸癌の患者に対して5-FU/LVを対照にして無病生存期間について非劣性が示されている。
その他	

参考文献 南江堂 リスク別 がん化学療法レジメン 改訂第2版
中外製薬 ゼローダ適正使用ガイド